



大すきいっぱい土の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和4年5月12日
土井首小学校
文責：校長 江原芳樹
第3号

学校から見える山々が、萌黄色に輝いています。それぞれの樹々が若芽を出し、それぞれの色を主張しています。青柳、花萌黄、若葉色、若菜色、若緑、裏葉色、薄柳、若芽色、黄浅緑など、微妙に異なる緑色にもそれぞれ名前があります。

昔から日本では、緑系の色を80色以上、青系の色も70色ほど、わずかな違いを見分けながら、呼び名をつけてきました。

山々を見ていると、緑色の多様性に改めて気づかされる5月です。

応援団長認定式

5月22日（日）は、運動会です。今年も、来賓の来校はなく、保護者の参観人数についても各家庭2名までとの制限をとっていますが、学校全体での運動会を実施する予定です。子どもたちも各学年の種目練習に取り組み、生き生きとした表情を見せています。

今年の運動会は、赤白対抗で行います。各色には応援団があり、6年生を中心に応援練習にも力が入ってきました。

そこで、先日応援団長に、運動会の成功を託す意味から、「応援団長認定証」を渡しました。応援の練習を見ると、応援団長の声が響き、高学年を中心としたサポートメンバーが、一致団結して取り組んでいます。

応援合戦はプログラムNo.1です。今年の応援団にも注目ください。



白組応援団長は、白組応援のシンボルの「パワー」のポーズを、赤組応援団長は力強いガッツポーズをして写真に納まっています。

団長に運動会への意気込みを聞きました。

白組応援団長：「明るく、元気に、楽しく、全力を出し切って優勝めざします！」

赤組応援団長：「みんなで最後まであきらめず、協力して優勝めざします！」

今年も、本部テントを設置せず、校舎側からの参観ができるようにします。みなさんが参観できるように、場所取りをすることは控えてください。また、ビデオや写真など SNS でのアップはしないようお願いします。

あいさつ

土井首地区は3校で「ワンストップあいさつ」に取り組んでいます。「ワンストップあいさつ」とは、立ち止まり相手を見てあいさつをすることです。

土の子も、「ワンストップあいさつ」が定着してきています。特に、高学年はしっかりと「ワンストップあいさつ」を意識して取り組むようになり、その姿は「美しい」と感じています。

さて、「あいさつ」は、学校においても指導しますが、その土台となる力はやはり家庭教育です。学校で指導しなくとも、1年生から立派なあいさつができる子の背景には、温かな家庭教育の力を感じます。

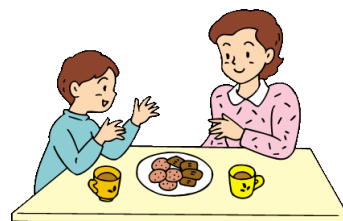
「あいさつ」と「家庭状況」の相関関係を調査した興味深い報告があります。調査結果から次のようなことが報告されています。

【家庭内でよくあいさつをしていると答えた子どもの家庭状況の上位】

- 1位：家庭での団らん時間→家庭内でのコミュニケーション時間
- 2位：家庭生活への満足度→家庭内での充実感
- 3位：家での手伝い時間→家庭内で役割をもっている

【家庭内でよくあいさつをしていると答えた親の子どもに対する家庭状況の上位】

- 1位：家での手伝い時間→家庭内で役割をもっている（「ありがとう」の場面）
- 2位：家庭での団らん時間→子どもの話を聞く時間
- 3位：親自身の家庭生活満足度→家庭内での充実感（の共有）



子どもも親も上位は同じです。

興味深いのは、「お手伝いの時間」です。「お手伝いの時間」が長いほど、よくあいさつをしているとの相関関係が見られています。

自分の役割や出番が家庭内にあり、その役割や出番に対し「ありがとう」と応えてくれる人（親）がいることが、子どもの「あいさつ力」につながっているのでしょう。

《校長室散歩道 R4 版 No.3》

「頑張ろうと努力する人でないと、応援できない。」

担任時代、私がよく子どもたちへの激励の意味で使っていた言葉です。

日本社会のグローバル化がすすみ、他国から見た日本という視点で報道されることが多くなりました。日本を知る意味で大切な視点だと思うのですが、新しい視点で見たからこそ、気付く価値もあります。

ある番組で、「日本のここが不思議」とのタイトルで、在日外国人の意見が述べられていました。その中に「日本人は、マラソンなど頑張っている人に、『頑張れ！』とさらに求めている。」との意見がありました。日本人のコーディネーターも賛同意見を述べています。

「日本人は、頑張ることを強要し過ぎだ。」というのです。

私たちが使う「頑張れ！」は、共感的なものです。相手が頑張っていないから強要しているのではなく、頑張っていることを理解しているからこそその称賛でもあります。

「頑張れ！」、この言葉を子どもが励みとして成長する関係でありたいと願います。